所蔵における公平：公立図書館における「郵政民営化」または「靖国神社」を主題とする書籍の所蔵

大　場　博　幸

要約

公立図書館が，対立する意見を持つ著作を公平に所蔵しているかどうかを検討した。全国320館の公立図書館を対象に，「郵政民営化」または「靖国神社」を主題とする書籍の所蔵数を調べた。その結果，前者に賛否別の所蔵数の偏りがみられ，一方で後者の偏りは小さかった。しかし，偏りは図書館側が意識的に一方の主張を支持した結果ではなく，需要や質を配慮した結果である可能性もある。このためさらに，出版社の信用や需要の多寡などの他の属性を含めて重回帰分析を行った。この結果，「郵政民営化」では，需要がもっともよく所蔵数を説明した。しかし「靖国神社」では，特定出版社からの書籍や書評を受けた書籍を優先する傾向が見られた。このパターンの違いは，ある主題領域を「対立する意見のある分野」であると，公立図書館側が認識するかどうかによると推測した。

――目次――

1．公平な所蔵とは何か
2．調査方法
2.1. 調査タイトル
2.1.1.「郵政民営化」を主題とする書籍
2.1.2.「靖国神社」を主題とする書籍
2.2. 所蔵調査
2.3. 質と需要の指標
3．「郵政民営化」を主題とする書籍群の分析
3.1. 賛否別の所蔵冊数
3.2. 他の属性を考慮した重回帰分析の結果
3.3. 考察
4．「靖国神社」を主題とする書籍群の分析
4.1. 賛否別の所蔵冊数
4.2. 他の属性を考慮した重回帰分析の結果
4.3. 考察
4.4.「郵政民営化」と「靖国神社」の差異
5．結論
注・参考文献・付表

1．公平な所蔵とは何か

公立図書館は，対立する意見を持つ主題があれば，それぞれの書籍を“公平”に所蔵しなければならないとされる。それでは，公平な所蔵とはどのようなものなのだろうか。

こうした考えはまず，公立図書館が公的機関であるということから導くことができる[1)]。行政には中立が求められる。公務員の倫理においては，「政治的」だと見做されるような，特定の見解の肩を持つような行為は，退けられなければならないことである。

またそれは，日本図書館協会による，図書館員の職業倫理を示す『図書館の自由に関する宣言』からも導くことができる。『宣言』は，資料収集の際，“多様な，対立する意見のある問題については，それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する”（第１項２(2)）ことを求めている。

いずれにせよ，公立図書館では，対立する意見を公平に扱わなければならない。それでは，それはどのような所蔵となるのだろうか。

まず，容易に思いつくのが，一対一の比でそれぞれの書籍を所蔵するということである。ある主題に関して，支持派10冊と不支持派10冊がそれぞれ書架に並んでいれば，その図書館は中立的だと見なせるだろう。しかしながら，事はそう単純ではない。

それぞれの出版点数が異なることは容易に考えられる。出版されているもののうち，支持派の書籍が30冊，不支持派の書籍が20冊である場合，一対一の所蔵比は公平だと言えるだろうか。また，需要が異なっていることもありうる。支持派と不支持派の書籍に対する需要が，２：１である場合はどう評価すべきか。さらに，書籍の質も無視できない。支持派の主張は論理的で説得力があるのに，不支持派の主張は情緒的で根拠に欠けるという場合[2)]，どの程度のバランスが正当なのか。

今のところ，こうした疑問を解決する基準は存在しない。もちろん所蔵の公正さについて議論は蓄積されているが，あまり実用的でないというのが現実である[3)]。この研究では，日本の公立図書館が，意見対立のある主題分野の書籍を，実際にどのように所蔵しているのかを明らかにすることで，所蔵における公平を考えるステップとしたい。以下に示す方法で検証を行う。

第一に，意見対立のある主題分野の書籍をリストアップし，日本全国の公立図書館における所蔵冊数を調べる。主題には，「郵政民営化」と「靖国神社」の二つを採りあげる。後者が争点であることはよく認識されているだろう。一方で，前者は，伝統的な左右の対立に収まりにくい争点である。2005年の衆議院議員選挙に至るまでの間に，図書館界がこれを争点のある主題として認識してきたか不明である。性質の違うこの二つの主題を材料として採りあげる。

第二に，対立する書籍群それぞれの“一点あたりの所蔵冊数”が対等ならば，公平な所蔵であると，とりあえず定義し，実際の所蔵冊数を比較する。このように定義するメリットは，出版点数の影響を取り除くことができる点にある。上で示した支持派と不支持派の例では，前者が1/3，後者1/2となるので，所蔵は対等でなく，後者に有利と結論できる。この定義は，需要の多さや著作の質を考慮しないという点で，非常に単純で，かつ言葉の真の意味で価値中立的な資料選択であると言える。

しかしながら，すでに述べたように，意見対立があるという事実のみが考慮されて所蔵が決まる，という考えは単純すぎる。蔵書構成は長い期間にわたって形成されるものであるため，一冊の書籍の受け入れを検討するたびに，過去に受け入れた同じ主題の書籍群がどのような意見構成だったかを，資料選択者がはっきりと把握しているとは考えられない。むしろ，需要や質への考慮が先にあって，次に公平について漠然と配慮される，と想定したほうが現

実的だろう。

このため第三に，需要や質が与える所蔵冊数への影響を検討し，先に定義した公平さの基準をどの程度歪めているのかを見る。意見への賛否に加えて，需要や質を表す諸指標を独立変数として，重回帰分析をおこなうのである。この作業により，公平さの配慮が，実際の蔵書構成にとってどの程度重要な意味を持っているのかを理解できるだろう。

なお，所蔵冊数のデータは全国320館の図書館の所蔵調査を基にしている。そのため，ここで示されているのは，平均的な日本の公立図書館の傾向である。個々の図書館に選書意図が存在するのはもちろんのことであるが，この研究にそれは反映されていない。ここで示されているのは，個々の図書館が資料選択に持ち込んだ様々な意図を平均化した傾向である。

調査方法や扱った属性についてのデータは第 2 章で解説する。次に，第 3 章で「郵政民営化」を主題とする書籍群の調査結果と分析結果，考察を示す。第三に，第 4 章で「靖国神社」を主題とする書籍群の調査結果と分析結果，考察を示す。最後に，第 5 章の結論で，全体をまとめる。

2．調査方法

2.1. 調査タイトル

2.1.1.「郵政民営化」を主題とする書籍

「郵政民営化」を主題とした書籍は，1980年代末から，郵便貯金の肥大化とともに散見されるようになってきた。政治の場で問題となった最初の時期は，1997年の橋本首相時の行政改革においてである。この時，郵便局の公社化が決定して一旦議論は沈静化したが，2001年に完全民営化を唱える小泉政権が誕生して再び議論が活発になった。2005年の衆議院議員選挙では中心的な争点となり，民営化を主張する自民党側が多くの議席を獲得した。

「郵政民営化」は，意見対立のある主題であることは明白である。しかしながら，争点であることが広く一般に認知された時期は21世紀を越えてからであり，伝統的な左右のイデオロギー対立にうまく当てはまらない。このような主題を持つ書籍は，公立図書館でどのように扱われるのか，はっきりとしたことを言えない。書籍は1980年代後半から出版されているが，その頃から対立のある政治的トピックとして図書館で扱われてきたかどうかもよくわからない。

調査タイトルは，国立国会図書館蔵書目録における件名などを基準として選定した。市販の著作に限定し，件名として「郵便事業」「郵便貯金」「郵便行政」「郵便局」のうちどれかが付与され，かつ，タイトルまたは他の目録などから「郵便局・郵便行政の現状または今後」についての言及があると推定できるタイトルを選定した[4)]。なお，郵便局や郵便行政を部分的な主題として扱っている著作と，「財政投融資」を件名とする著作は含めていない。前者のほとんどは，時論集または日本経済についての著作であり主題が広すぎる。一方で，後者は主題が限定されすぎており，郵政問題について理解するのに適した著作群とはいえない。

こうして，1988年～2005年の12月までに発行された82タイトルが抽出された。なお，便宜のため1987年以前の著作は省いた。タイトルリストを付表 1 に示した。

また各タイトルは，内容を分析され，民営化の賛否に従ってグループ分けされた[5)]。賛否については，以下の基準に従って数値化した。

否　定　的（-2）：民営化反対論者が著者。または民営化論に疑義を呈する記述がある。

やや否定的（-1）：郵便行政の現状を肯定的に記述。
中　　立（0）：中立またはどちらに対しても否定的。
やや肯定的（1）：郵便行政の現状を否定的に記述。
肯　定　的（2）：民営化賛成論者が著者。または民営化に肯定的な記述がある。

2.1.2.「靖国神社」を主題とする書籍

「靖国神社」は，1950年代から国内問題であった。ただし，1970年代半ばまでは，神社を国が管理するかどうかが主な争点であった。1975年になってはじめて，当時の三木首相が参拝に公私の区別をつける発言をしたことで，首相の公式参拝が争点として浮上する。以降も首相の参拝は続けられていたが，今日まで続く国際問題となったのは，1985年に中曽根首相（当時）が参拝を「公式」であることを明確にしてからである。

「靖国神社」は，伝統的なイデオロギー対立に収斂する主題であり，書籍において賛否が曖昧にされる可能性が少ない。本研究では，調査対象を国際問題化した1985年以降のタイトルに限った（ただし，これ以前のタイトルで，現在でも入手可能な 2 点も加えた）。2 点を例外として，1985年以前のタイトルを除いたのは，需要を示すデータを入手し難いためである。

タイトルは，第一に，国立国会図書館蔵書目録における件名を基準として選定した[6)]。件名として「靖国神社」が付与された一般書籍を選んだ。第二に，上に含まれないもので，国立情報学研究所の webcat において件名に「靖国神社」を持つ一般書籍も加えた。第三に，上記以外で，オンライン書店 Amazon.co.jp で「靖国」のキーワードでヒットし，靖国神社を中心の主題とするタイトルをさらに加えた。最後のケースにおいて，1985年以前に発行されながら，調査時点で絶版にならず，刊行中であった2点の書籍を発見している。

こうして，1985年～2005年の12月までに発行された94タイトルに，1985年以前出版で現在も入手可能な 2 点を加えた，全96タイトルが抽出された。タイトルリストを付表 2 に示した。

さらに，各タイトルは，内容を分析され，首相の公式参拝あるいは靖国神社の持つ思想の賛否に従ってグループ分けされた[7)]。

賛否は，否定的（-2），やや否定的（-1），中立（0），やや肯定的（1），肯定的(2)として数値化した。なお，「やや否定的」には，著述は中立的だが，現状を問題視する著作が含まれている。一方，「やや肯定的」には，靖国神社の思想に深く立ち入らないガイドブック的な著作が含まれている。このような著作は中立ではないと見なしたのである。

2.2. 所蔵調査

所蔵調査の対象図書館は，日本全国の市区町村立図書館である。2005年 1 月時点で，各都道府県立図書館の横断検索システムから検索可能な図書館を抽出した。中でも特に，ISBN を使った検索を行うことのできる図書館を優先した。その結果，自治体単位で320館の図書館が調査対象となった。ただし，市町村合併を行っているもののまだ図書館システムの統合がなされていないケースについては，『日本の図書館 2005年版』に従って自治体数をカウントしている。「郵政民営化」を主題とするタイトルの調査は2006年 1 月16日～2006年 1 月24日の間に行った。「靖国神社」を主題とするタイトルの調査は2006年 1 月30日～2006年 2 月14日の間に行った。

第１図は，調査した図書館の数を資料費別に示したものである。資料費の額は『日本の図書館2005』にしたがった。分布は，新書の所蔵を調べた先行研究[8)]におけるパターンと同様である。したがって、特に留意するような偏りは無いといえる。

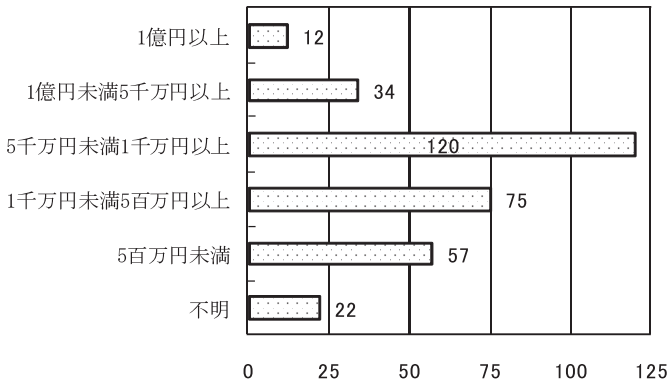

図１　図書費別調査図書館数

2.3. 質と需要の指標

見かけ上の所蔵冊数がどうであれ，図書館は所蔵の公平さに配慮している，あるいは配慮していないとは，すぐには解釈できない。所蔵は，意見の違い以外の要因によっても決定されるからである。これら他の要因も分析に加えるために，次にいくつかの指標を準備する。

重要な属性として，質の高さや需要の多さが挙げられる。書籍の質が高ければ，賛否とは無関係に所蔵数が多くなるかもしれない。また，賛否や書籍の質とは無関係に，需要の多さだけで所蔵が決まる可能性もある。あるいは，所蔵数は，賛否，質，需要全てを配慮した結果かもしれない。

上のような可能性があるため，質と需要という要因についても検討に加える必要がある。それぞれを表す指標を用いて重回帰分析をおこなえば，所蔵冊数との関係の強さを測定することができるだろう。需要の多寡を表す指標として，Amazon.co.jp のデータを用いることができる。一方，質の高さを表すと考えられる指標として，出版社の信用の高さ，著作の新しさ，書評の有無，選定図書か否か，などが考えられる。出版社の信用の高さは，出版社の創立年の古さと会社の規模が代理の指標となる。さらに，質にも需要にも収まりきらない指標として価格も加えることができる。

次にそれぞれの指標について解説する。

＜需要の指標＞

Amazon.co.jp ランキング：短期的な需要の指標である。

これまでベストセラーでない書籍の需要の序列を推定することは難しかったが，オンライン書店 Amazon.co.jp が公開している売上ランキングによって，短期的な需要の序列を推定できるようになった。そのアルゴリズムは公開されていないが，累積した売上ではなく，短い期間の売上を反映したものと推定できる[9)]。

「郵政民営化」を主題とするタイトルについては，2006年１月５日20：00時点，2006年１月21日17：00時点，2006年２月６日20：00時点の，三時点でのランクを調べた。数値は，それぞれのランクを足して３で割り，順序尺度化して昇順に並べなおしたものである。

「靖国神社」を主題とするタイトルについては，2006年１月10日20：00時点，2006年１月27日11：00時点，2006年２月11日10：00時点の，三時点でのランクを調べた。数値には，「郵政民営化」のランクと同様の処理を施した。

Amazon.co.jp 評数：累積的な需要の指標となる。これは，Amazon.co.jp における各書籍のページに一般読者が投稿した書評の数である。観察の上では，数が多いものは話題作で需要が多いものと解釈できる。書評は日を経れば新たに投稿されるので，調査日の違いが書評数に影響しないように，2005年12月以前の書評を集計した。ランキングより，累積的な需要を推定するのに優れている。

＜質の指標＞

出版年：常識的な予想をすれば，発行年の新しいタイトルほど所蔵されているはずである。

出版社の創立年：雑誌や新書の分析においても，信用を代表する指標として，雑誌やシリーズの「古さ」は重要だった。ただし，これまでのところ出版社自体の古さの影響は今まで観察されていない。

創立年は『日本の出版社 2006年版』を参照した。(中央公論新社は1886年を，角川書店は組織改変以前の1945年を創立年として採用した)。ただし，少なくない数の出版社において，倒産廃業などでデータに欠損がある。そのうち一部の社は，出来る限り近い年度の『日本の出版社』の旧版，あるいはインターネット上の会社情報などでデータを補った。下の「資本金」と「従業員数」も同様に処理している。

出版社の資本金：会社の規模は，ビジネス上の信用をもたらす。これが所蔵の多寡にどう影響しているかを正確に説明することは難しいが，取次を通じた（あるいは広告を通じた）図書館への宣伝活動などによって所蔵の差を産むとも考えられる。数値は『日本の出版社 2006年版』を参照した。

出版社の従業員数：「出版社の資本金」と同様，図書館への宣伝力を代表すると予想される。数値は『日本の出版社2006年版』を参照した。

書評の有無：調査タイトルが書評を受けたかどうかを単にカウントした。書評の内容については検討していない。書評の掲載の有無は，雑誌『出版ニュース』の連載「新聞・雑誌書評リスト」で判断した。その収録範囲は，新聞は五大紙と東京新聞，共同通信社によるもの 7 社，雑誌は総合月刊誌・一般週刊誌を中心とした20誌である。

「郵政民営化」を主題とするもので，書評を受けた調査タイトルは 8 点あった。一方，「靖国神社」を主題とするもので，書評を受けたタイトルは 6 点であった。

選定図書か否か：日本図書館協会が認定する「選定図書」のリストに入ったかどうかも，所蔵に影響すると予想される重要な質的評価の指標である。ただし，「郵政民営化」に関しては，該当タイトルが 3 点しかなかった。一方，「靖国神社」に関して該当タイトルは 8 点あった。

＜その他の指標＞

価格：常識的な予想をすれば価格の安いタイトルほど所蔵されているはずである。安価な著作は，内容的にも一般向けだと推定できる。ただし，調査タイトルのほとんどは1000円台であり，全体の価格差はそれほど大きくない。

指標の扱いは次のようにする。「郵政民営化」の場合，選定図書か否かを除く全ての指標を独立変数として用いる。データに欠損の無い，分析可能なタイトルの数は61件である。

「靖国神社」の場合，上のすべての指標を独立変数として用いる。データに欠損の無いタイトルの数は59件である。

なお，上に挙げた質的指標に表されるものを，書籍の「価値」とみなすことに異論はあるだろう。ここではその議論には立ち入らず，これらは需要とは異なる情報を表示する指標であると指摘するに止めたい。

3.「郵政民営化」を主題とする書籍群の分析

3.1. 賛否別の所蔵冊数

「郵政民営化」を主題とする書籍群の，所蔵における賛否のバランスを示す結果を第１表に示す。

第１表　賛否別点数と所蔵冊数（郵政民営化）

	タイトル数	所蔵冊数	1タイトル当たりの所蔵冊数
否定的(−2)	30	1405	46.8
やや否定的(−1)	7	365	52.1
中立(0)	11	812	73.8
やや肯定的(1)	11	807	73.4
肯定的(2)	23	2465	107.2
合計	82	5854	71.4
否定的+やや否定的	37	1770	47.8
肯定的+やや肯定的	34	3272	96.2

調査対象となった320の図書館では，一タイトルあたり平均して71冊所蔵されていることがわかる。表の下部では，民営化に肯定的なタイトルが，否定的なタイトルより2倍以上の確率で所蔵されることが示されている。それぞれのタイトル数は34と37でそれほど差はない。しかしながら，否定的またはやや否定的な書籍群の一タイトルあたりの所蔵冊数が約48であるのに対して，肯定的またはやや肯定的な書籍群のそれは約96である。これは，偏向した所蔵だといえるだろう。

3.2. 他の属性を考慮した重回帰分析の結果

２章で述べたように，所蔵に影響する要因は，その主題に対する賛否のみに限られるわけではない。このような考えに基づき，この節では需要と質がどの程度所蔵に関わっているのか分析した。所蔵冊数を従属変数とし，Amazon ランキング，Amazon 評数，出版年，出版社の創立年，出版社の資本金，出版社の従業員数，書評の有無，価格，を独立変数とする重回帰分析を行う。ソフトウェアには JMP7を用い，要因のスクリーニングを行った。

その結果を第２表Ａ列に示す。自由度調整済み R^2 値は0.17で，このモデルの所蔵冊数に対する説明力はあまり高くない。出版社関連のデータの欠損が多くて，投入できる件数が少なくなっているためだろう。これら指標の標準化偏回帰係数（β値）の値も高くなく，重要でないと考えられるので，それらを除いたモデルで再度分析し直した。

出版社関連のデータを除いたモデルをＢ列とＣ列で示した。それぞれ，「賛否」の影響を測るため，賛否を独立変数に含むもの（Ｂ列）と，含まないもの（Ｃ列）を用意している。それぞれの自由度調整済み R^2 値は0.2程度であり，決して当てはまりが良いとは言えないものの，Ａ列よりは優れている。

以下に第２表Ｂ，Ｃ列が示していることを挙げる。

第一に，Amazon のランキングと所蔵冊数との相関がとても高いことを指摘できる。一方で，Amazon 評数のそれは有意ではない。ここから，一見すると所蔵数は，累積的な需要よりも，短期的な需要を反映しているかのように見える。しかしながら，この解釈はおそ

第２表　所蔵冊数と関連する指標の分析（郵政民営化）

	A:N=61 出版社有/賛否除		B:N=70 出版社無/賛否除		C:N=70 出版社無/賛否含	
	標準β		標準β		標準β	
賛否					0.247	*
Amazon.co.jp Rank	0.357		0.640	**	0.572	**
Amazon.co.jp 評数	0.119		-0.010		-0.045	
出版年	-0.382	*	-0.408	**	-0.329	*
出版社の創立年	0.060					
出版社の資本金	0.031					
出版社の従業員数	0.297					
書評の有無	0.239		0.161		0.119	
価格	0.073		0.081		0.084	
自由度調整済みR^2値	0.169	*	0.219	**	0.264	**

*:p<.05，**:p<.01

らく間違っている。これについては次節で検討する。

第二に，次に出版年と所蔵冊数も相関しているが，解釈の難しい結果になっている。標準化偏回帰係数（β値）の符号がマイナスだからである。それは特に新しくない書籍がより多く所蔵されていることを示している。

第三に，C列から賛否との相関があることがわかる。それは様々な要因を調整しても，なお賛成派が有利に所蔵されていることを示している。

第四に，書評の有無と価格は，それぞれ所蔵冊数と相関していない。

3.3. 考察

短期的な需要を表すように見えるAmazonランキングが有意であるということは，何を意味するのか。また，なぜ出版年が古いと有利なのだろうか。さらに，なぜ賛成派が有利となっているのだろうか，

Amazonランキングの意味は何か。「郵政民営化」を主題とする著作の大半はかなり下位のランク（10万位以下）に属し，順位の変動は少ない。大きく変動するのは，短期的に需要があったタイトルである。それに対して，下位ランクは，中期的な需要の序列を保存した状態になっているのであろう[10]。したがって，この主題の書籍群に限っては，Amazonランキングは，短期的なものではなく、それほど長くない期間の累積的な需要を反映させている可能性が高い。図書館側が短期的な需要を反映するように選択と除籍を行った結果であるという可能性も考えられるものの，現実的とは言えない。おそらく累積需要を示すというのがもっともありうる事態だろう。

一方で，Amazon評数が相関を示さなかった理由は，70件のデータのうち評を一つも受けていないタイトルの数が41件あり，累積の需要を表す十分な指標とならなかったためであると考えられる。

出版年については次のように推測する。1990年代に出版された調査タイトルはAmazonランキングでかなり下位にある。また，投入されたのはデータの欠損の無い出版社の書籍であり，それらは図書館によく所蔵されている。したがって，そうした諸指標に反映されなかった何らかの属性が影響したものと思われる。推測になるが，おそらくそれは過去の需要だろ

う。Amazon のランキングで示されているように，中期的な需要と所蔵が相関するならば，同様に調査対象書籍内で初期に出版されたタイトルも需要に従って所蔵されてきた、そう予想することができる。

賛成派が有利である理由はよくわからない。図書館が意図して偏った選択を行った結果なのか，または何か別の隠れた要因がそれに反映されているのか，これら二つの可能性がある。前者はあまり合理的でないように思われる。これも推測になるが，賛成派の方が質の高い議論を展開しているなどの事実があるのではないかと予想される。

以上をまとめると，所蔵冊数にもっともよく反映されているのは，累積的な需要の序列であると推定できる。それに対して，所蔵冊数に書籍の質はあまり反映されていない。すなわち，この主題の書籍群の所蔵パターンは，図書館側が，利用者の要求に沿った選書を，あるいは需要を予測した選書を行った結果だと推定できるのである。

4.「靖国神社」を主題とする書籍群の分析

4.1. 賛否別の所蔵冊数

「靖国神社」を主題とする書籍群の，所蔵における賛否のバランスを示す結果を第 3 表に示す。

調査対象となった320の図書館では，一タイトルあたり平均して64冊所蔵されている。

表の下部では，靖国神社に否定的なタイトルが，肯定的なタイトルよりやや高い確率で所蔵されることが示されている。肯定的またはやや肯定的な書籍群の一タイトルあたりの所蔵冊数が約55であるのに対して，否定的またはやや否定的な書籍群のそれは約73だからである。これは，肯定派にやや不利で，否定派にやや有利な所蔵である。しかし，「郵政民営化」での結果ほどの偏向ではないといえる。

第 3 表　賛否別点数と所蔵冊数（靖国神社）

	タイトル数	所蔵冊数	1タイトル当たりの所蔵冊数
否定的(−2)	47	3486	74.2
やや否定的(−1)	3	176	58.7
中立(0)	5	237	47.4
やや肯定的(1)	14	509	36.4
肯定的(2)	27	1749	64.8
合計	96	6157	64.1
否定的+やや否定的	50	3662	73.2
肯定的+やや肯定的	41	2258	55.1

4.2. 他の属性を考慮した重回帰分析の結果

「郵政民営化」を主題とする書籍群と同様，質や需要の影響を見るために，2.3. 節で挙げた独立変数を加えて重回帰分析を行った。同じくソフトウェアには JMP7を用いる。投入した変数は，Amazon ランキング，Amazon 評数，出版年，出版社の創立年，出版社の資本金，出版社の従業員数，書評の有無，選定図書か否か，価格，である。なお，データに欠損の無いものは59タイトルに限られ，うち 2 タイトルは Amazon 評数において外れ値となるので除外した[11]。そのため，全57タイトルでの分析となっている。

その結果を第 4 表の A 列に示す。A 列のモデルの場合，短期的な需要の指標である Amazon ランキングの値がプラスに有意である。反対に，累積的な需要の指標である Amazon 評数はマイナスに有意である。また，出版社の創立年の標準化偏回帰係数は−0.76となり，大きすぎるとの印象を受ける。

A 列に示された傾向は，次のようなことを意味しているのだろうか。「発行されてからし

第 4 表　所蔵冊数と関連する指標の分析（靖国神社）

	A:N=57 岩波無/賛否除		B:N=57 岩波有/賛否除		C:N=57 岩波有/賛否含	
	標準β		標準β		標準β	
賛否					-0.016	
Amazon.co.jp Rank	0.440	**	0.249		0.253	
Amazon.co.jp 評数	-0.398	*	-0.185		-0.182	
出版年	0.181		0.277	*	0.273	
出版社の創立年	-0.755	**	-0.357	*	-0.352	
出版社の資本金	-0.019		0.039		0.045	
出版社の従業員数	-0.197		-0.033		-0.029	
書評の有無	0.223		0.244	*	0.247	*
選定図書	0.031		0.038		0.034	
価格	-0.110		-0.037		-0.034	
岩波書店刊			0.497	**	0.494	**
自由度調整済みR^2値	0.473	**	0.583	**	0.574	**

*:p<.05,　**:p<.01

ばらくの期間 Amazon.co.jp で書評数を稼ぐことができなかったが，調査時点になって突如需要されはじめた書籍が，有利に所蔵されている」。また「公立図書館が出版社の創立年の古さを非常に重視している」ことを。

そうではない。こうした不可解で解釈の難しい傾向は，岩波書店刊の出版物を指標として加えるだけで是正できる。調査対象の中に岩波書店刊の書籍は 7 点含まれているが，その平均所蔵冊数は245もあり，他のタイトルの平均である64（第 3 表参照）より 4 倍弱有利に所蔵されている。公立図書館が岩波書店の書籍を優遇する傾向は，新書の所蔵を調べた先行研究でも確認されている[8)]。このため，岩波書店刊であるか否かを示すダミー変数を独立変数として，重回帰分析にさらに加えた。

その結果が第 4 表の B 列と C 列である。それぞれ，B 列は賛否を除いたモデル，C 列は含めたモデルとなる。自由度調整済み R^2 値は，二つのモデルでいずれも0.6弱であり，所蔵冊数に対する説明力は中程度である。次に，第 4 表の B, C 列から指摘できることを挙げる。

第一に，岩波書店から発行されたタイトルは非常に有利に所蔵される。

第二に，新聞・雑誌などで書評を受けたタイトルは有利に所蔵される。

第三に，Amazon.co.jp のランキング，評数ともに所蔵数との相関を示さない。

第四に，賛否を除いたモデル（B 列）では，出版年の新しさと出版社の創立年の古さも所蔵を有利にする。しかしながら，賛否を含めたモデル（C 列）では，それらの相関が消えてしまう。

第五に，出版社の信用を表す指標のうち二つ，資本金と従業員数，さらに選定図書か否かと価格，これらの指標との相関は，いずれのモデルでも確認できない。

4.3. 考察

全体として，いくつかの質的な指標に対する相関のみが見られることが指摘できる。すなわち，この主題においては，公立図書館が質的な判断にしたがって所蔵を決めていることをうかがわせる。

もっとも重要な属性は岩波書店の発行であることで，公立図書館は少なくともこの主題に

おいて岩波書店を非常に高い評価を与えていることがわかる。

次に重要な属性が，新聞・雑誌で書評されたことである。これには二つの解釈が可能である。一つは，個々の図書館がそうした書評を重視し，書評を受けたタイトルを購入しているという解釈。一つは，もともと注目すべき内容または質を有しているタイトルであるために，結果として図書館に多く所蔵され，また同時に新聞や雑誌で書評を受ける，という解釈である。いずれにせよ，そうした属性を持つ書籍はその質の高さの故に有利に所蔵される，と見なすことができる。

では，出版年の新しさと出版社の創立年の古さは何を意味するのだろうか。

まず，出版年に関しては理解しやすい。古い書籍より新しいものの方に需要が集まることが多いため，新しい書籍が所蔵において有利になるのである。

では，出版社の創立年の古さは何を意味するのだろうか。それは，経済的な意味での出版社の信用である。付表2から，2001年以降になって，小学館や日本放送出版協会，PHP 研究所のような，比較的創立年の古い出版社[12]からの発行が多くなってきていることを指摘できる。対照的に，2000年以前の早い時期に出版された調査タイトルには，あまり規模が大きくない出版社発行のものか，または宗教団体系の出版社発行のものが多く含まれていることを指摘できる。

4.4.「郵政民営化」と「靖国神社」の差異

「靖国神社」を主題とした書籍の分析では，賛否が有意でない。ここから，二つの解釈ができる。一つは，図書館側がこのテーマに関して論争があることを認識しており，所蔵数に配慮しているという解釈。二つは，この主題においてはなんらかの理由で質的評価を優先する資料選択をしている結果、所蔵が公平に近づいたという解釈である。

実のところ両者は矛盾しない。図書館は，この主題を意見対立のある領域と認識しているがために，通常の資料選択では重きを置かれるはずの需要の比重を低めて，質的評価を参考にしようとしている。このような理解が整合的だろう。

「靖国神社」の主題領域では，Amazon.co.jp の二つの指標は有意でなく，需要は所蔵に影響していない。しかし，新書の所蔵を調査した先行研究[8]や「郵政民営化」を主題とする書籍群においても，需要の多寡は重要な指標であった。需要を考慮することは一般的であるのに，この主題では敢えて考慮されなかったのである。

一方で，需要を反映する場合，新聞や雑誌における書評の所蔵への影響は弱いものか，ほとんど無いものだった。しかしながら，この主題では有意に出ている。岩波書店重視も含めると，ある種の質的な評価が行われていることがわかる。

このように，分析結果が「需要の軽視と書評の重視」という一般的でないパターンを見せるのは，図書館側がこの主題を対立する意見のある分野であると認知しているからではないかと推測される。このように質的評価を下す場面は稀なケースなのだろう。

「郵政民営化」はそのようなケースではない。この政策は伝統的な左右の対立図式にあてはまらないため，対立を認知しにくいテーマであったのだろう。そのため，個々の図書館はこれを争点として認識しない状態が長期にわたったまま，関連書籍の所蔵を決定していたと推測される。結果として，「郵政民営化」を主題とする書籍群においては，需要が影響力を持ったと予想されるのである。

5．結論

以上から次の結論が導きだせる。

第一に，主題によって所蔵数のバランスは異なるということである。「郵政民営化」の場合，賛否別の所蔵数のバランスは対等ではなかった。一方で，「靖国神社」の場合のそれは，１対１に近いものになっていた。異なる理由はおそらく，図書館側がその主題を「意見対立のある領域」と認知するかどうかによると推測される。

第二に，対立が認知されなかった場合，その主題領域に属する書籍は，他の一般書籍と同様の属性をもとに所蔵を判断される。特に需要の多寡などが重要な判断材料となるだろう。

第三に，対立が認知された場合，その主題領域に属する書籍は，内容について検討され，所蔵を判断される。その際，信用ある出版社からの発行か，または新聞・雑誌などの書評で表される質の高さが，指標となる。

第四に，認知されるケースは，認知されないケースより稀である。すなわち，書評の掲載で表されるような高度な質への配慮は，所蔵の判断において，あまり頻繁でない可能性がある。

以上である。この現状に対して「公立図書館は主題領域においてできるだけ対立を認識し，上の第三のものとして挙げたような対応を行い，所蔵のバランスを保つべきである」という提言することは正当だろうか。

この提言は単純すぎるだろう。中立性に関しては別の解釈もあるからである。

書籍の質を考慮した所蔵バランスは，需要における中立性を歪める可能性があるとして，それを否定する立場もありうる。仮に，支持の多い方の立場の著作の質が低いという判断がなされれば，不支持派に比べてその所蔵は少なくなる。それは，支持派の利用者の要求が小さく見積もられ，不平等な扱いを受けるということを意味する。支持派にとっては，「郵政民営化」のケースのような需要に沿った判断が正当であり，「靖国神社」のケースのような質的判断は余計なものと感じられるだろう。いわゆる多数決を重視した決定である。残念ながら，公立図書館の選書の議論ではこうした矛盾を整理する概念は用意されておらず，今のところ当否は判断できない。この問題は，今後の課題として残されている。

注

1）日本で現在もっともスタンダードな憲法教科書に従うと，公務員に関しては，“政党政治の下では，行政の中立性が保たれてはじめて公務員関係の自立性が確保され，行政の継続性・安定性が維持されるので，そのために一定の政治活動を制限することも許されるのである”（芦部，1999，p.251）

2）「科学」という基準からみた，米国における進化論とインテリジェント・デザイン論との対立はそのようなものだろう。

3）北米における同様の研究では，論争的な書籍の所蔵の有無が単純にカウントされていることが多い。例えば，Budd 1991; Budd and Cynthia Wyatt 2002, Harmeyer 1995; Palmer 1988である。

日本では，「図書館の自由」に関連した議論となることが多い。該当する文献をすべて挙げることは控えるが，代表的なものとして，日本図書館協会による『図書館と自由』シ

リーズ，塩見 1989，渡辺 1989が挙げられる。なお，近年では船橋市西図書館の大量除籍事件に対する最高裁判決が代表的である。その図書館関係者による解説として，前田 2006，瀬島 2008が挙げられる。

それらのほとんどが，所蔵を決定するかあるいは廃棄する時点での，短期的なタイムスパンにおける判断基準に留まっており，蔵書構築・蔵書管理という立場での長期的視点に欠けているのが難点である。

4）具体的には，下記 1-4 に該当し，報告書など灰色文献でないものを選択した。

1．NDL OPAC において，件名「郵便事業 and 民営化」または「郵便貯金」または「郵便行政」または「郵便事業」または「郵便局」でヒットする市販の書籍。

2．NDL OPAC において，件名「特殊法人」でヒットし，解題等で郵政または郵貯について章を割いていることのわかる市販の書籍。

3．NDL OPAC において，件名「民営化」でヒットし，解題等で郵政または郵貯について章を割いていることのわかる市販の書籍。

4．上記 1-4 以外で，時論集ではない，郵政に関する問題に一章以上割いた市販の書籍。

5）賛否の判定は本研究の著者自身が行った。タイトル，目次，著者，出版社，内容の一部を一見した印象，これらを総合した判断による。

6）具体的には，下記 1-3 に該当し，報告書など灰色文献でないものを選択した。

1．NDL OPAC において，件名「靖国神社」かつ1985年以降でヒットする市販の書籍で，建築関係・工事記録・名簿・非売品・私家版を除いたもの

2．NII の webcat において，件名「靖国神社」かつ1985年以降でヒットする市販の書籍で，建築関係・工事記録・名簿・非売品・私家版を除いたもの

3．上記 1-2 以外で，Amazon.co.jp で「靖国」のキーワードでヒットし，靖国神社を中心主題とすることが覗えるもの。

7）賛否の判定は，注 5 と同様の方法で行った。

8）大場，2009.

9）服部，2011.

10）10万位を越えた回数は，61タイトルを 3 時点で観測したうち16回である。タイトル数で見ると12点であり，他の49点のタイトルは10万位以下に滞留したままである。

11）除外したものは，高橋哲哉『靖国問題』（ちくま新書），小林よりしのり『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 靖國論』(幻冬舎)である。それぞれ83評と74評を受けていたが，他のタイトルすべてが 0 ～ 8 評でしかないため，この二つを除外した。

12）それぞれの創業年は，小学館1922年，日本放送出版協会1931年，PHP 研究所1946年である。

参考文献

Budd, John M (1991) “Best sellers and pulitzer prize winners: core or not?” Collection Building. Vol.11, No.1, , p.9-13.

Budd, John M and Cynthia Wyatt (2002) “"Do you have any books on... ": An examination of public library holdings” Public Libraries. Vol.41, No.2, p.107-112.

Harmeyer, Dave (1995) “Potential collection development bias: some evidence on a

controversial topic in California" College & Research Libraries. Vol.56, p.101-11.
Palmer, Joseph W (1988) "Factors responsible for the acquisition of Canadian fiction by U.S. public and academic libraries" Library Acquisitions. Vol.12, p.341-356.
芦部信喜（1999）『憲法：新版補訂版』岩波書店.
大場博幸（2004）"暗黙の選択基準：市町村立図書館における新聞・雑誌所蔵"『Library and Information Science』No.52, p.43-88.
大場博幸（2009）"所蔵における優先序列：市町村立図書館における新書の選択"『常葉学園短期大学紀要』No.40, p.21-36.
塩見昇（1989）『知的自由と図書館』青木書店.
瀬島健二郎（2008）"船橋市西図書館蔵書除籍事件の最高裁判決の意義と課題"『人文・社会科学研究』No.16, p.153-162.
服部哲弥（2011）『Amazon ランキングの謎を解く：確率的な順位付けが教える売上の構造』DOJIN 選書, 化学同人.
前田稔（2006）"思想の自由と「公的な場」の「公正」：船橋市西図書館蔵書廃棄事件判決の評価"『図書館界』Vol.58, No.3, p.154-163.
渡辺重夫（1989）『図書館の自由と知る権利』青弓社.

付表１　「郵政民営化」調査タイトルの書誌と所蔵冊数、賛否（出版年月順）

タイトル	責任表示	出版社	出版年	所蔵冊数	賛否
郵政攻防	山脇岳志	朝日新聞社	2005	149	2
日本郵政：解き放たれた「巨人」	町田徹	日本経済新聞社	2005	184	-2
これならわかる！「郵政民営化」	松原聡	中央経済社	2005	88	2
郵政大乱！小泉魔術（マジック）	大下英治	徳間書店	2005	48	0
郵政：何が問われたのか	世川行介	現代書館	2005	183	-1
世界のポストバンク	星野興爾	郵研社	2005	37	-2
郵政夏の陣	小和口亮	リューブン	2005	0	-2
だまされるな！郵政民営化：郵政民営化を狙うグローバリズムの罠	荒井広幸，山崎養世	新風舎	2005	69	-2
あすなろ村の惨劇：郵政民営化の素朴な不安	野村正樹	郵研社	2005	6	-2
郵政事業の政治経済学：明治郵政確立史、日英経営比較と地域貢献	高島博	晃洋書房	2005	18	-1
郵政民営化こそ日本を変える：経営者、大いに語る	北城恪太郎	PHP 研究所	2005	65	2
郵政最終戦争	塩田潮	講談社	2005	33	1
ジャパンポスト：郵政民営化 40万組織の攻防	八木澤徹	日刊工業新聞社	2005	38	-2
郵貯消滅：超借金国家・日本を破産させないために	跡田直澄	PHP 研究所	2005	103	2
第二のビッグバン「郵政民営化」の衝撃：日本解体の危険なシナリオを暴く！	青柳孝直	総合法令出版	2005	48	0
郵政民営化：「小さな政府」への試金石	竹中平蔵	PHP 研究所	2005	152	2
決戦・郵政民営化	猪瀬直樹	PHP 研究所	2005	179	2
新郵便局完全活用マニュアル：民営化でここが変わる！	日本文芸社	日本文芸社	2005	20	0
郵貯崩壊：国が「民営化」を急ぐ本当の理由	仁科剛平	祥伝社	2004	263	0
郵政民営化で始まる物流大戦争：売上高24兆円の超巨大複合企業が動く！	鈴木邦成	かんき出版	2004	101	2
頑張れ郵便局！：糾すべきは財投資金の運用先だ	千代田経綸研究所	朱鳥社	2004	35	-2
国営ではなぜいけないのですか：公共サービスのあり方を問う	田中弘邦	マネジメント社	2004	60	-2
世界の郵便改革	星野興爾	郵研社	2004	71	-2
特定郵便局の真実：日本最古にして最大のネットワーク	原田透	ダイヤモンド・セールス編集企画	2004	105	-1
あえて「郵政民営化」に反対する	滝川好夫	日本評論社	2004	56	-2
郵政事業の新展開：地域社会における郵便局の役割	石井晴夫，武井孝介	郵研社	2004	12	-2
郵趣家から見た「郵政民営化」：全国25,000郵便局への「郵頼」から考える	酒井正雄	クレイン	2003	6	0
特定郵便局長になった僕の落第日記	本間修一	新風舎	2003	27	-1
郵便局をアメリカに売り渡すな	荒井広幸	飛鳥新社	2002	49	-2
郵政改革の未来	金子秀明	ワンツーマガジン社	2002	30	-2
郵政最終戦争：小泉改革と財政投融資	塩田潮	東洋経済新報社	2002	108	1
誰も知らない郵政帝国	日経ビジネス	日経 BP 社	2002	126	2
図解 郵政公社が見る見るわかる：公社化後の郵便局を見通すための77項	松原聡	サンマーク出版	2002	133	2
勤倹貯蓄を奨励する歌：郵便局ネットワークは安心・安全の拠点	伊藤基隆	亜紀書房	2002	6	-2
ドイツポスト vs.日本郵政公社	水野清	中経出版	2002	71	2
地域と暮らしをポストがつなぐ：郵便局はふれあい満載	鹿野和彦	日本能率協会マネジメントセンター	2001	48	-2
郵政民営化の虚構：21世紀の新しい郵便局をめざして	石原洸一郎	リヨン社	2001	43	-2
郵政民営化：郵便局はどこへ行く	池田実	現代書館	2001	104	2
郵貯が危ない	財部誠一，織坂濠	徳間書店	2001	14	-2

公的金融の改革：郵貯問題の変遷と展望	戸原つね子	農林統計協会	2001	5	2
郵政民営化でこう変わる：『国営神話』には、もうだまされない	松原聡	角川書店	2001	73	2
論争・郵便局が消える日	中公新書ラクレ編集部	中央公論新社	2001	165	0
ここまで来た！郵政民営化生激論：公社化法案をめぐる最終戦争		宝島社	2001	86	0
小泉純一郎と特定郵便局長の闘い	世川行介	エール出版社	2001	71	1
「郵政民営化」小泉原案	水野清ほか	小学館	2001	80	2
郵便局民営化計画	原田淳	東洋経済新報社	2001	232	2
郵便貯金が危ない！	黒崎誠	世界書院	2000	23	1
郵貯激震：106兆円の行方を追え	古賀純一郎	NTT 出版	2000	86	1
変革期の郵政事業：課題と展望	全逓総合研究所	日本評論社	2000	7	-1
郵政民営化論：日本再生の大改革！	小泉純一郎，松沢しげふみ	PHP 研究所	1999	120	2
郵便局があぶない	別冊宝島編集部	宝島社	1999	45	1
郵便屋さんが泣いている：郵便局腐蝕の構図	池田実	現代書館	1999	143	1
がんばれ！郵便局	荒川恒行	エール出版社	1998	72	-2
郵政民営化は国を滅ぼす！：郵政事業をとりまく行政改革論議の検証	島崎忠宏	ジュピター出版	1998	16	-2
あなたの郵便貯金がおろせなくなる日	浅井隆，大伴高史	第二海援隊	1998	161	2
弱者の論理：郵政三事業が生活・地方・金融・情報弱者を救う	荒井広幸	NEAR 総合研究機構	1998	10	-2
郵便局は 5 年後が危ない	宍戸啓一	エール出版社	1998	34	1
郵政の関ヶ原：特定郵便局パワーが炸裂！	小和口亮	久保書店	1998	9	-1
庶民の郵便局を守れ！：郵政三事業の民営化は何のため?誰のため?	糸井成人	日新報道	1997	28	-2
郵政3事業「国営 or 民営」その是非を問う	郵政民営化問題研究会	日本リーダーズ協会	1997	26	0
郵便局の危ない未来	佐久間祐二	エール出版社	1997	74	2
図解 郵便局が見る見るわかる：郵貯・簡保・郵便を見直すための80項	松原聡	サンマーク出版	1997	131	2
郵便局のゆくえ：民営化決定で揺れる30万人組織の現在		宝島社	1997	123	0
守ろう！！みんなの郵便局：民意なき行革	鬼定佳世	コボリ出版	1997	4	-2
郵貯が危ない：ビッグバン・民営化で郵便局は消滅する	財部誠一，織坂濠	徳間書店	1997	117	-2
21世紀を展望した郵便局改革ビジョン	郵政審議会	日刊工業新聞社	1997	68	-2
爆発する郵貯と生保	浅井隆，大伴高史	第二海援隊	1997	82	2
郵便局のヒミツ：はじめて明かされた30万人組織の内部		宝島社	1997	150	1
郵便局がなくなる日：郵政解体で日本経済は沈没する	井上隆司	文香社	1997	142	-2
郵便局が崩壊する：郵便局の解体を策謀する宅配便、銀行、保険業界と郵便局の反撃作戦。	佐久間裕二	エール出版社	1996	30	-2
郵貯・簡保の最新事情	郵政省郵政研究所	東洋経済新報社	1996	50	-2
拝啓小泉純一郎様「あなたは間違っている」：財投・郵政解体論に反撃	荒井広幸	麻布出版	1996	9	-2
現代の郵政事業	松原聡	日本評論社	1996	27	0
郵政省解体論：「マルチメディア利権」の読み方	小泉純一郎，梶原一明	光文社	1994	144	2
郵便局に怯える銀行・生保・宅配業界	宇治野憲治，岡崎和彦	エール出版社	1994	19	-2
どうして郵貯がいけないの：金融と地球環境	グループ KIKI	北斗出版	1993	86	1
郵貯・郵便局の未来	金子秀明	東洋経済新報社	1993	82	-2
郵便局はどこに行く！：第三次行革審の提言を前にして	大将軍一輝	創栄出版	1991	0	0
郵便局が消える日	グループ K	エール出版社	1990	33	2
郵便局の21世紀戦略	情報と社会を考える会	エール出版社	1988	16	-1
郵便局が危ない	アドユー・企画編集室	エール出版社	1988	28	1
郵貯民営論：郵貯・銀行論争史	後藤新一	有斐閣	1987	59	2

付表 2 「靖国神社」調査タイトルの書誌と所蔵冊数、賛否（出版年月の新しい順）

タイトル	責任表示	出版社	出版年	所蔵冊数	賛否
首相の靖国神社参拝は当然です！：そこが知りたい19のポイント	日本会議	明成社	2005	3	2
新世紀の靖國神社：決定版 全論点	小堀桂一郎, 渡部昇一	近代出版社	2005	53	2
靖國問題に答う	森磐根	ボイジャー	2005	0	2
ニッポン人なら読んでおきたい靖国神社の本	別冊宝島集部	宝島社	2005	26	0
靖国神社に異議あり：「神」となった三人の兄へ	樋口篤三	同時代社	2005	45	-2
靖国神社：正しく理解するために	三浦朱門	海竜社	2005	151	2
日本はそんなに悪い国なのか：A 級戦犯・靖国問題・平和祈念碑設立をめぐって	上坂冬子	PHP 研究所	2005	18	2
国家戦略からみた靖国問題：日本外交の正念場	岡崎久彦	PHP 研究所	2005	100	2
首相が靖国参拝してどこが悪い！！	新田均	PHP 研究所	2005	62	2
靖国問題の原点	三土修平	日本評論社	2005	137	-1
靖国問題の精神分析	岸田秀, 三浦雅士	新書館	2005	72	0
新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 靖國論	小林よしのり	幻冬舎	2005	253	2
靖国：この国を愛するために	宮本辰彦	国書刊行会	2005	22	2
国家と犠牲	高橋哲哉	日本放送出版協会	2005	132	-2
靖国神社：せめぎあう〈戦没者追悼〉のゆくえ	赤澤史朗	岩波書店	2005	274	-2
玉串料裁判を裁判する：英霊に捧げる鎮魂の祈り	若林徹雄	東京図書出版会	2005	8	2
靖国問題	高橋哲哉	筑摩書房	2005	416	-2
「靖国」という檻からの解放	菅原龍憲	永田文昌堂	2005	1	-2
参拝したら違憲：首相靖国参拝と闘った211人	小泉首相靖国神社参拝違憲九州・山口訴訟団	明石書店	2004	52	-2
靖國論集：日本の鎮魂の傳統のために/新版	江藤淳, 小堀桂一郎	近代出版社	2004	30	2
新しい追悼施設は必要か	国際宗教研究所	ぺりかん社	2004	39	-1
合祀はいやです。：こころの自由を求めて	田中伸尚	樹花舎	2003	17	-2
靖国と憲法	百地章	成文堂	2003	21	2
戦死者のゆくえ：語りと表象から	川村邦光	青弓社	2003	33	0
日本はそんなに悪い国なのか	上坂冬子	PHP 研究所	2003	305	2
「靖国神社への呪縛」を解く	大原康男	小学館	2003	38	2
すっきりわかる「靖国神社」問題	山中恒	小学館	2003	240	-2
日本の皆様、靖国神社を守って下さい：ブラジルの中高生からの手紙	川村真倫子	明成社	2003	8	2
戦争と追悼：靖国問題への提言	菅原伸郎	八朔社	2003	49	-2
日本人と靖国神社	新野哲也	光人社	2003	85	2
靖國神社遊就館の世界：近代日本の歴史探訪ガイド	大原康男	産経新聞ニュースサービス	2003	41	1
「新遊就館」ものがたり	西川重則	いのちのことば社	2003	9	-2
「心」と戦争	高橋哲哉	晶文社	2003	120	-2
靖國神社一問一答	石原藤夫	展転社	2002	61	2
靖國神社誌	靖国神社	神社本廳教學研究所	2002	0	1
靖國の祈り遥かに	所功	神社新報社	2002	3	1
靖国神社：そこに祀られている人びと	板倉聖宣,重弘忠晴	仮説社	2002	27	-2
検証・靖国問題とは何か	PHP 研究所	PHP 研究所	2002	133	2
Q&A もっと知りたい靖国神社	歴史教育者協議会	大月書店	2002	185	-2
靖国の戦後史	田中伸尚	岩波書店	2002	359	-2
靖國問題の周辺	臼井貞光	愛知縣護國神社社務所	2002	0	2
自由と忠誠：「靖国」「日の丸・君が代」そして「星条旗」	土屋英雄	尚学社	2002	1	-2
靖國の日	村上令一	朱鳥社	2001	27	0
この国のゆくえ：教科書・日の丸・靖国	梅田正己	岩波書店	2001	449	-2
いま「靖国」を問う	平和を願い戦争に反対する戦没者遺族の会	かもがわ出版	2001	66	-2

あなたが決める！靖国神社公式参拝	宮地光	チクマ秀版社	2001	46	-2
靖国	坪内祐三	新潮社	2001	98	2
靖国神社をどう考えるか?：公式参拝の是非をめぐって	加地伸行ほか	小学館	2001	79	0
靖国公式参拝の総括	板垣正	展転社	2000	55	2
ようこそ靖國神社へ：オフィシャルガイドブック	靖國神社,所功	近代出版社	2000	63	1
天皇の神社「靖国」：有事法制下の靖国神社問題/増補版	西川重則	梨の木舎	2000	57	-2
やすくにの祈り：目で見る明治・大正・昭和・平成	靖國神社,やすくにの祈り集委員会	産経新聞ニュースサービス	1999	32	1
靖国	坪内祐三	新潮社	1999	272	1
浄土の回復：愛媛玉串料訴訟と真宗教団	安西賢誠	樹花舎	1998	5	-2
靖国神社と日本人	小堀桂一郎	PHP 研究所	1998	80	2
平和問題・ヤスクニ問題研修カリキュラム	基幹運動本部事務局	本願寺出版社	1998	0	-2
靖国問題と最高裁判決と	加地伸行	國民會館	1997	39	2
靖国を問う：われらは今、ここに立つ	備後・靖国問題を考える念仏者の会・会員	永田文昌堂	1997	0	-2
日本における文明の衝突	小堀桂一郎	國民會館	1997	47	2
靖國：慰霊と鎮魂		政治経済研究会	1996	7	2
散華の心と鎮魂の誠：「大東亜戦争終戦五十年展」の記録	靖国神社	展転社	1995	12	1
世のいのり・国のいのり：続・信の回復	和田稠	真宗大谷派宗務所出版部	1995	2	-2
靖国神社をめぐる諸問題	岩田重延	創栄出版	1995	0	-1
遺族の声とどく：京都・大阪靖国訴訟証言集	中曽根首相の靖国神社公式参拝に抗議する会	行路社	1994	6	-2
わかれ道に立って、よく見：ヤスクニ・天皇制問題宣教集	日本バプテスト連盟靖国神社問題特別委員会	ヨルダン社	1994	3	-2
いざさらば我はみくにの山桜：「学徒出陣五十周年」特別展の記録	靖国神社	展転社	1994	46	1
童子のみたま祭：画集	西原比呂志絵	展転社	1993	9	1
昭和っ子は謳う	南雅也	展転社	1993	16	1
靖国神社をより良く知るために		靖国神社社務所	1992	1	1
岩手靖国違憲訴訟	沢藤統一郎	新日本出版社	1992	34	-2
岩手靖国違憲訴訟戦いの記録：石割桜のごとく	岩手靖国違憲訴訟を支援する会	新教出版社	1992	4	-2
真宗と靖国問題	浄土真宗本願寺派反靖国連帯会議	永田文昌堂	1991	0	-2
靖国違憲訴訟	大江志乃夫	岩波書店	1991	140	-2
「靖国」問題関連年表	高石史人	永田文昌堂	1990	7	-2
検証国家儀礼：1945〜1990	戸村政博	作品社	1990	55	-2
天皇をめぐる神々のざわめき	佐木秋夫	あずみの書房	1990	9	-2
靖国神社：創立120年記念特集	吉成勇	新人物往来社	1989	5	1
反靖国への連帯：朝枝実彬先生追悼論集	真宗本願寺派反靖国連帯会議	永田文昌堂	1989	1	-2
遺族・女・アジア：続靖国を撃つ	樹心の会	永田文昌堂	1989	2	-2
自衛隊よ、夫を返せ！：合祀拒否訴訟	田中伸尚	社会思想社	1988	40	-2
神話と祭儀	戸村政博	日本基督教団出版局	1988	5	-2
天皇の神社「靖国」	西川重則	梨の木舎	1988	80	-2
反「靖国」の射程・続	藤原正信	永田文昌堂	1987	1	-2
反靖国論集	靖国問題研究会	新地平社	1987	8	-2
岩手靖国違憲訴訟・玉串料訴訟一審記録	岩手靖国違憲訴訟を支援する会	岩手靖国違憲訴訟を支援する会	1987	2	-2
靖国神社遊就館		靖国神社遊就館	1987	6	1
靖国論集：日本の鎮魂の伝統のために	江藤淳, 小堀桂一郎	日本教文社	1986	43	2
靖国信仰と日本人	後藤文利	ヒューマンドキュメント社	1986	29	2

所蔵における公平：公立図書館における「郵政民営化」または「靖国神社」を主題とする書籍の所蔵

靖国神社：祭典と行事のすべて		靖国神社社務所	1986	3	1
信の回復/改訂版	和田稠	真宗大谷派宗務所出版部	1986	1	-2
靖国神社：1869-1945-1985	村上重良	岩波書店	1986	83	-2
靖国・因果と差別	仲尾俊博	永田文昌堂	1985	2	-2
靖国公式参拝を批判する		新教出版社	1985	8	-2
靖国神社国家神道は甦るか！	土方美雄	社会評論社	1985	36	-2
靖国神社	大江志乃夫	岩波書店	1984	269	-2
慰霊と招魂：靖国の思想	村上重良	岩波書店	1974	138	-2